



発行所 郡野大井 和泉村公民館 印刷所 松浦印刷所

一九六二年

奥越電源開発問題の行方

村民よ結集して難局に当れ

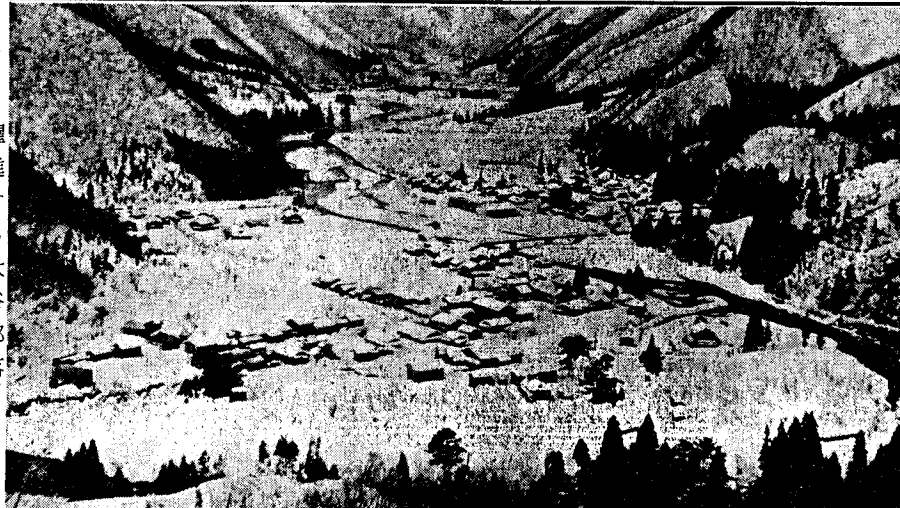
足掛け五年を迎えた奥越電源開発問題も北電電発の両社競願のまゝ、年を過ぎ自社開発計画案の妥当性を主張して来たのである...

料の不整よりむしろ両社間に於いて開発計画の根本問題に関する未調整の重要課題が...

四月一日にあたり、小学校一年生になられる予定の児童名簿が村教育委員会にて作成されました...

新入学児童の予定者さきまる

- 石神 敬、林 公子、林 ひさの、池田 全良、横山 節子、田中 秀子、中森 大策、中森肥呂司、高影 一美、三島みのり、三島 早苗、島坂 末子、長瀬 英代、島内 集治、若山富士子、若山 定子、勢柄千鶴子、山田智代美、野村 千里、三島 治子、南 敦郎、大原 幸一、原田 浩三、(持穴) 小沢 与宏、高谷美美子、小沢 義隆、長谷川街子、(持穴) 小沢 政三、池尾 政信、池尾 利美、坂田 健、若山美恵子、若山 巧、三島登代美、若山由香里、若山 隆男、若山 安夫、正者いづみ、若山美代子、尾崎 崇子、(野尻) 原田 豊美、大牧 昇、(米俣) 杉山 貴彦、(伊勢) 伊東 登、山下 和雄、大杉 玲子、鎌倉 幸弘、三島美根雄、(久沢) 徳山 秀夫、橋本 幹雄、(長野) 牧島 龍士、(鷺) 鷺塚千恵美、(角野) 山腰 啓三、(朝日) 表 義正、洞口 春代、(川合) 桜川 久根、平野 芳雄、笠川 律子、宮原 弥生



躍進する大谷部落

冬の祭典

第七回スキー大会終る

一月二十八日、和泉村、和泉村体育協会、福井新聞社の主催で第七回奥越スキー大会が持穴スキー場で開催された。

- △滑降 成年部 一位 公民館長杯 中山 和男(下半原) 二位 阿部健太郎(持穴) 三位 岩淵 安城(大谷) 少年部 一位 観光協会長杯 山本 豊(池ヶ島)

- △回転 成年部 一位 三島杯 美濃島俊一郎(箱ヶ瀬) 二位 中電鉱業所長杯 小沢 順平(大谷) 三位 三島 幸雄(箱ヶ瀬) 中学部 一位 吉川杯 田中 誠一(東部中) 二位 若山 健夫(東部中) 三位 高橋 博司(東部中)

- △回転 成年部 一位 福井新聞社長杯 森尾清左衛門(長野) 二位 池尾 吉夫(米俣) 少年部 一位 村長杯 田中 栄(東部中) 二位 鎌倉 義正(東部中) 三位 池尾 靖博(東部中) 滑降、回転前走者 田中勝美君

- 新井 忠一、平野まり子 (貝皿) 洞口由美子 (後野) 古島ひろみ、三島 克美、三島偉代子 (角野前坂) 平瀬 清隆、三橋 武彦 (朝日前坂) 三橋みづ子 (小谷堂) 竹花 篤良 (三面) 上村ゆりの (下山) 島田 洋子、村下 義美、松山美津子、山 美枝、谷 なおみ、谷 充留、西 信雄、清水由美子 (上大納) 前田 裕子、権守 節子、小宮山みづ子、青木富美男、荒井 光男、高藤 道子、佐々木竜彦、黄倉 和見、清水 俊郎、東大園俊一、平野 博文、平瀬 薫、長崎 伸夫、尾崎 治和、川中 英治、番屋 隆範、佐藤 孝史、横 地 務、原田 勝治、吉沢 芳子、池田 護、大西 京子、奥島 和江、川端 浩之、田中 千鶴、田中 巨徳、成実 誠一、中森喜美枝、上原 勝枝、山本 薫、山崎万里子、松浦 菊子

村民の声

『いずみ』さん

「いずみ」さんは、ことしかぞえの五つになった大へんりこうな子で、とても元気よくそだつています。まい月一べんは、かならず遊びに来てくれますが、どうしたかかあまりお友だちがいないよ...

馬の村がなつかしいでしょう。「いずみ」さんの村に喜びや、悲しみがあつたときは、らい月といわずすぐにその写真を一ぱいのせて、ほんのちよつびりせつめいをつけて遊びにきてください。

工場や会社ではたがっている人も、高校や大学にいて勉強している学生も、胸の中には、あの山あいにはポツリポツリたつていて...

おわび



日進小学校 田中文庫創設さる

日進小学校出身、沼津市富士製 作所重役石神津一氏が死去され 社葬が行われました。一貫で故 里を飛び出し今日に至る同氏の努 力を記念して、社葬香料の内から 一部を、社長田中清一氏より寄贈 されました。それを資金に「田中 文庫」を創設、児童読物を備えま した。読物に不足している児童に 極めて有益と思われまします。

- 1、たのしい名作童話集 五〇冊
- 2、今昔童話集 六冊
- 3、少年少女日本歴史小説集 二〇冊
- 4、岩波少年文庫 一〇〇冊
- 5、世界の民話と伝説 一〇冊
- 6、学習漫画文庫 四八冊
- 7、一二年学習絵文庫 一八冊
- 8、世界伝記全集 二五冊
- 9、少年の観察と実験文庫八七冊
- 10、世界探険冒険全集 一一冊
- 11、世界科学名作全集 一一冊
- 12、みづばち文庫 二一冊
- 13、目で見る日本史物語 八冊
- 14、ひろすけ幼年童話文学全集 一一冊

おばあちゃん

清水眞由美

おばあちゃん、うちでいばん 強いのです。それはおじいちゃん が家へ養子になつて来たからです。 ある日おばあちゃんが山へけを 取りに行つて帰つて来るのを、お じいちゃんが遠くの方から見つけ て「アツウチの大臣が帰つて来た」と 言いました。

又おばあちゃんは山と魚が好き です。夏休みの時おばあちゃん と 子供三人が水族館へ行きました。 私や弟たちは二へんも行ったので 私はおばあちゃんにゆつくり見物 をさせてやることにしました。お ばあちゃんはとても汗かきなので 汗をかきながら水族館の中を一つ 一ついねいに歩いて行きました。 私は魚のいい見物でおばあちゃん の顔ばかり見ていました。その 一日はおばあちゃんはとても楽し そうでした。

おばあちゃん、さいほうでも ミシンでもお花でもなんでも出来 ます。

うちのそばあちゃん、とても

夕焼け

吉川とよみ

空一面まっかにそまつた 村全体が照らされた ともきれいだ 人々も空を見上げて 電線の上でも 夕焼けをながめて いるものがある。 それは小鳥たちである。

わたし

島貴美子

私はいま道の途中の わかれめにいる 正しい方へはわかつてい る それなのに 正しい方へは なか／＼行けない 私は努力している それで なかなか行けない 私は まんなかで あしぶみしている なんとかして 良い方へいきたい ととき／＼悪い方に 足が出る 又いそいそでもどす 私は いま ともつらい。

かみなり

木島友幸

空に大きな響をいれて あばれるだけ あばれたかみなり だん／＼遠くなる どこへ行くのだろう 西へ行けば大野 東へ行けば北濃 どちらにも 僕の親せきがある

成人者の声

新しいフアイトを

長谷川俊成

月日は百代の過客にして... だまだと思ひながら、私も早一人 前に成人式を迎える年となりまし た。精神年齢？歳(相変らず)で ありながら、年だけは一人前以上 にとつていく自分を全く恥ずかし いと思ひますが、これも月日と共に 誰しもが一度は味わう事であつ て仕方ありません。

しかし、こんな私も成人式を迎 えるとなると何かグツと大人びた ような気がして、新しいフアイト をわかさずにはいられません。お

わたし

私はいま道の途中の わかれめにいる 正しい方へはわかつてい る それなのに 正しい方へは なか／＼行けない 私は努力している それで なかなか行けない 私は まんなかで あしぶみしている なんとかして 良い方へいきたい ととき／＼悪い方に 足が出る 又いそいそでもどす 私は いま ともつらい。

かみなり

空に大きな響をいれて あばれるだけ あばれたかみなり だん／＼遠くなる どこへ行くのだろう 西へ行けば大野 東へ行けば北濃 どちらにも 僕の親せきがある

わたし

私はいま道の途中の わかれめにいる 正しい方へはわかつてい る それなのに 正しい方へは なか／＼行けない 私は努力している それで なかなか行けない 私は まんなかで あしぶみしている なんとかして 良い方へいきたい ととき／＼悪い方に 足が出る 又いそいそでもどす 私は いま ともつらい。

かみなり

空に大きな響をいれて あばれるだけ あばれたかみなり だん／＼遠くなる どこへ行くのだろう 西へ行けば大野 東へ行けば北濃 どちらにも 僕の親せきがある

成人になつて

新井基衛

今年には待ちに待った喜びの年、 成年になれた事を私は心から喜ぶ のであります。二十年の永い間 父母と社会の皆様に育て上げられ て来ました。心の中には一日と してこの日を忘れる事はなかつた のです。喜びあれば兄弟を思い悲 しみあれば父母を思う。花咲けば 気持新たに桜が眼の前に浮び、雪 にじませうつぶせになり気を失つ

受験を前にし

いずみひがし

しのびよる やみと寒さを 外にして 課外の教師は くりかえし説く 三度四度 まだ説きかす 口もとに じつとみいれり 四十のひとみ かまけのき ともどもに のりこえゆかむ この意気の愛

かみなり

空に大きな響をいれて あばれるだけ あばれたかみなり だん／＼遠くなる どこへ行くのだろう 西へ行けば大野 東へ行けば北濃 どちらにも 僕の親せきがある

わたし

私はいま道の途中の わかれめにいる 正しい方へはわかつてい る それなのに 正しい方へは なか／＼行けない 私は努力している それで なかなか行けない 私は まんなかで あしぶみしている なんとかして 良い方へいきたい ととき／＼悪い方に 足が出る 又いそいそでもどす 私は いま ともつらい。

かみなり

空に大きな響をいれて あばれるだけ あばれたかみなり だん／＼遠くなる どこへ行くのだろう 西へ行けば大野 東へ行けば北濃 どちらにも 僕の親せきがある

人のうしろ

野尻

「手を離すな」私はいま叫びた い。成年諸君よ固く手をつなぎ、 私達のこの美しい郷土を社会を永 遠に明るくしようではありません か。

かじか

近頃テレビ、ラジオの 番組などを見て居ると、 落語とか漫才とか笑いに 関するものが全くなし。 これは大へん結構なる事 である。此の間もある落 語家か「笑い」は人間の特 権だから大いに笑つて貰いたい」と 言つて居た。これは其の通りで あつて、人間以外の動物はまず笑 わないと考へて良からう。絶対に 笑わない人があるとするれば、それ は生れたばかりの赤ん坊か精神的 に何か欠陥のある人だらうと思ふ 笑いはわれ／＼にとつて米の飯の 様なもので、ラジオなどで笑いが 歓迎されるのは当然と思ふ。ここ ろが現在の世の中は必ずしも笑い の中に動いて居ない。笑つて話し 合うと言ふ場合も少くない。議 会などの様子を見て居ても、折々 新聞種になる様な乱れ騒ぎを演 じている。日本の政治家にもつと ユーモアがあればと思ふ事がある 世の中がセチ辛くなると思ふ事がある 笑いとか、優越的な笑いや物欲し そうな笑いが目立つて来る。本当

かみなり

空に大きな響をいれて あばれるだけ あばれたかみなり だん／＼遠くなる どこへ行くのだろう 西へ行けば大野 東へ行けば北濃 どちらにも 僕の親せきがある

わたし

私はいま道の途中の わかれめにいる 正しい方へはわかつてい る それなのに 正しい方へは なか／＼行けない 私は努力している それで なかなか行けない 私は まんなかで あしぶみしている なんとかして 良い方へいきたい ととき／＼悪い方に 足が出る 又いそいそでもどす 私は いま ともつらい。

かみなり

空に大きな響をいれて あばれるだけ あばれたかみなり だん／＼遠くなる どこへ行くのだろう 西へ行けば大野 東へ行けば北濃 どちらにも 僕の親せきがある

